

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)

要件(4) 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、前号の能力を身に付けるのに必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラムであること

【室蘭工業大学】

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	本学実施科目	内部評価	評価理由
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI活用の最新動向	・現代情報学概論 ・データサイエンス入門	A	現代情報学概論では、情報化社会の変遷から、データが社会で活用されるデータについて日常の広い領域から取り上げており、さらには、データサイエンス入門では、データ活用を主とした社会変革を基礎に広い領域から事例として取り上げている。
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	・現代情報学概論 ・データサイエンス入門	S	現代情報学概論では、社会で活用されるデータについて日常の広い領域から取り上げており、さらには、データサイエンス入門では、データを活用する事例を理工学の広い領域から事例として取り上げている。
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	・現代情報学概論 ・データサイエンス入門	A	現代情報学概論では、社会で活用されるデータについて、社会における日常の広い領域から取り上げており、さらにはデータサイエンス入門では、理工学領域の利活用から、価値創出につながる事例も取り上げた内容を含めている。
ただし数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	心得 3-1. データ・AI活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	・情報セキュリティ入門 ・現代情報学概論	S	情報セキュリティ入門では、情報を扱う上での倫理を重要視した情報倫理教育を行っており、入学初年度において、全学必修で行うことで、全学学生が情報における倫理教育を受ける体制を整えている。
実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	・データサイエンス入門 ・現代情報学概論 ・プログラミング入門	A	データの利活用の事例を通じて、データの活用法に関する内容を、授業内演習の形式にて実施している。

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。